

# みんなが主体的に考え行動する『今津コミュニティセンター』を視察研修

中津市の東部に位置する今津地区では、地域にある各種団体がそれぞれ独自に活動して相談や協議する場がない。また、どの団体もメンバーが固定されて高齢化も進み将来が心配だと悩んでいた。「どげんかせにやいかん！」ということと、平成25年から大分県公民館連合会モデル事業で「公民館活性化に向けた調査研究事業」をおこない、住民アンケート（意識および実態調査）を実施した。

その結果、住民は今津地区に愛着を持って、いるが生活に対して不満を抱えている人もいる。地域の課題を解決していくには、地域住民が主導で行政が支援する「地域づくりの進め方」が望ましい。地域づくり活動に重要な「住民同士のつながり」や暮らしやすい町にしていく、こう思う『住民意識』を高める場をつくるため、平成26年7月に「いきいき今津まちづくり協議会」を設立して、地域づくりを進めてきた。設立当初は、会議で

決まったことを自治委員さん方に協力を仰ぐだけだったので、なかなか理解と協力が得られなかったこと、反省を受けて、協議会組織の拡充を図るため現在は「まちづくり協議会」と「自治委員会」で構成する協議体（自治委員他14団体）として、メンバー全員で協議して進めるので、みんなが主体的に活動するようになったという「今津コミュニティセンター」を12月4日に訪問しました。



「今津コミュニティセンター」で館長より説明を受ける参加者

イ運営協議会が行う事

業等についても、課題は以前の今津と同じではないか。解決のためには、メンバー全員で協議することの大切さや地域の事情や問題点も考慮しながらの進め方など、やっているつもりでも出来ていなかった事に気づかされ大変参考になりました。また、事業以外の地域課題についても話し合う場として協議会活動を行い先ずは、取り組みやすく結果が出て実行しやすいことから始めていきたい。

事務局 小野

## 自治会館にもお正月

今年も、玖珠自治会館の玄関に門松が飾られました。塚脇老友クラブ（竹下博文会長）の皆さんが作ってくださり、今年で26年目となります。

クラブの皆さんも高齢化がすすみ、「いつまでできるかなあ」と不安の声も漏れる中、12月12日午前と13日午後の合わせて一日がかりで立派な門松が完成しました。



塚脇老友クラブの皆さんありがとうございました。

お客様から「立派な門松ですね！」とお声をたくさんいただきました

## 手作り学ぼう 冬季工作教室

12月16日（日）に玖珠地区育成協主催の冬季工作教室が参加者63名で開催され、来年の干支イノシシ（亥・猪）の置き物を作りをしました。

十二支の第二番目ウシ（牛・丑）からスタートした干支置き物シリーズは、今回のイノシシ（亥・猪）が第11作目となりました。

材料は、胴体にクヌギ、足と耳にツバキ、しっぽにシユロ紐、目にビーズ玉を使用しました。限られた時間内に仕上げられるように、前もって胴体部には切込みや穴が開けられていました。



今にも走りだしそうなイノシシたち

作業手順は次のようでした。  
①胴体のザラザラした部分を磨りつける ②耳としっぽをボンドで取りつける ③足を取り付ける ④色を塗る（赤・黒・白の三色の絵の具を、水で薄めないで塗る） ⑤目玉を取り付ける

いちばん手こずったのは、前足と後足をバランスよく取り付けることでした。大人のひとに切ったり削ったりしてもらった場面もありました。かわいいうりぼう（イノシシの子）もいくつかできました。予定した時間よりも早く、全員が完成させることが出来ました。

目標に向かって、パワーいっぱいひたすら前進するイノシシどんのイメージに沿うように邁進したいものです。（イノシシどん、農作物は荒らさないでね）

終了後、「おやしの会」の方々が腕をふるって作ってくれた昼食のカレーライスを、感謝をこめていただきました。

玖珠地区青少年健全育成協議会

事務局